

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

中枢神経系リンパ腫に対する治療の現状

2. 研究の対象患者

2014年1月1日から2019年12月31日までの期間に当院にて中枢神経系リンパ腫として治療された症例

・選択基準

脳実質、脳脊髄液、眼球にリンパ腫病変をもつ症例を中枢神経系リンパ腫と定義し、対象期間内に当科にて加療を行った全例を対象とする。原発性中枢神経系リンパ腫 (Primary central nerve system lymphoma: PCNSL) は、診断時に中枢神経系外に他の病巣を認めない中枢神経系に局限した節外性リンパ腫と定義され、一方で他臓器からのリンパ腫の中枢神経浸潤もしくは中枢神経再発は、二次性中枢神経系リンパ腫と定義して別々に解析する。

・除外基準

剖検にて診断されたなど治療が全く行われなかった症例は除く。

3. 研究の対象期間

2014年1月1日～2019年12月31日

4. 研究の概要

中枢神経系リンパ腫は、悪性リンパ腫に用いられる化学療法薬の多くが血液脳関門を通過しにくいいため他のリンパ腫に比べると非常に難治である。一方で放射線感受性は高いため、放射線療法も治療の重要な位置を占めているが、放射線治療単独での治療成績は悪く、適応は化学療法困難例に限られている。大量メソトレキセート療法 (HD-MTX) を基盤とする化学療法にて寛解導入療法を行い、引き続き全脳照射 (WBRT) による放射線治療を行うことが推奨されているが、60歳以上の高齢者では、全脳照射による遅発性中枢神経障害のリスクが高く、検討が必要である。

今回、実臨床における中枢神経系リンパ腫の治療の現状を把握するために、当院で中枢神経系リンパ腫の治療を行った症例を対象に後ろ向き解析を行うことを考えた。

5. 研究実施予定期間

2019年11月20日～2021年3月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

被験者背景：性別、年齢

診断：病理診断の有無と内容、原発性か二次性か、治療開始時 P S、合併症

治療：化学療法レジメンの内容および薬剤量、コース数、放射線療法の内容および照射量

化学療法、放射線療法の効果、有害事象、転帰、最終 P S

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・研究責任者：血液内科 田中宏明

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)